

## 社会資本総合整備計画 事前評価調書

計 画 の 概 要	計画の分野	地域住宅支援
	計画の名称	射水市における快適で安全・安心して暮らせる住まい計画(第二期)
	交付対象	射水市
	計画期間	平成27年度～平成31年度
	計画の目標	平成22年度から平成26年度の5カ年の事業に引き続き、定住人口の促進、高齢化社会への対応とともに、密集市街地の改善を行うことや、住宅・建築物の耐震化又は危険住宅の移転を行うことにより、安全で安心できる住まい・まちづくりを実現し、防災に強い安全なまちづくりのため、空き家対策や防災避難施設の環境整備を推進する。
	定量的指標 (目標値)	・放生津地区における老朽住宅戸数割合を「96.2%(H26)」から「87.0%(H31)」に向上 ・射水市における耐震化率を「木造一戸建て住宅 62%・不特定多数が集まる特定建築物等87%」から「木造一戸建て住宅65%・不特定多数が集まる特定建築物90%」に向上
	対象事業	住宅市街地総合整備事業、住宅・建築物安全ストック形成事業
	全体事業費	1,783,000千円

項 目	評 価 細 目	評 価	説 明 欄
目 標 の 妥 当 性	1 関連する上位計画等との整合性が図られているか	○	射水市総合計画、射水市住まい・まちづくり計画と整合性が取れている。
	2 地域の課題に適切に対応する目標となっているか	○	空き家、老朽家屋、町の衰退など地域の課題に対応している。
計 画 の 効 果 ・ 効 率 性	1 整備計画の目標と定量的指標の整合性が確保されているか	○	密集市街地の改善、耐震化率の向上と一致している。
	2 定量的指標が分かりやすいものとなっているか	○	老朽住宅戸数割合とすることで一般的に分かりやすい。
	3 目標と事業内容の整合性が確保されているか	○	老朽住宅を買取、取り壊し共同住宅の整備、区画整理を行うので目標と事業内容の整合性は確保されている。
	4 中間評価・事後評価時に検証可能な適切な指標となっているか	○	住宅戸数から算出されるので、随時検証可能である。
	5 十分な事業効果が得られる計画となっているか	○	放生津地区の老朽住宅割合は96.2%と非常に高く、また防災上も危険な状態なので、本事業により十分な効果が見込まれる。
計 画 の 実 現 可 能 性	1 計画の熟度が高く、円滑な事業執行の環境が整っているか	○	家屋の買取、解体、共同住宅の建設など計画的に行うことで、住人へ与える影響を最低限となっている。
	2 地元の機運が醸成されているか	○	地元へ放生津まちづくり検討会が設置され地元主体で事業を進めることができる。
評 価 結 果	評価Ⅰ <u>事業を実施</u> 評価Ⅱ 計画の見直し		<b>【評価基準】</b> 「評価Ⅰ」は、全項目に○印が付いているもの 「評価Ⅱ」は、1項目でも×が付いているもの

## 社会資本総合整備計画チェックシート

計画の名称: 射水市における快適で安全・安心して暮らせる住まい計画(第二期)

評価項目	チェック欄	備考
<b>I 目標の妥当性</b>		
①上位計画等との整合性(射水市総合計画、射水市住まい・まちづくり計画)	○	
②地域の課題への対応(地域の課題と整備計画の目標の適合性)	○	
③関連する各種計画(住生活基本法等)との整合性	○	
④緊急性の高い課題に取り組む内容となっている。 (該当するものに○) ア 老朽化した住宅の更新      ① 安全面、衛生面等の居住環境の改善 イ 子育て世帯、高齢者、障害者等の居住の安定の確保      エ 既存住宅ストックの有効活用 オ まちなか居住の推進      ② 地方定住の推進 キ その他(地域の実情に応じた緊急性の高い課題を記入)	○	
<b>II 整備計画の効果・効率性</b>		
①事業計画の目標と定量的指標の整合性	○	
②定量的指標の明瞭性	○	
③目標と事業内容の整合性	○	
<b>III 整備計画の実現可能性</b>		
①円滑な事業執行の環境(事業熟度、住民等の合意形成等を踏まえた事業実施の確実性)	○	H18年度から合意形成を図るため、説明会等を実施
②地元の機運(住民、民間等の活動・関連関連事業との連携等による事業効果発現の確実性)	○	地元からの整備促進に向け要望がなされている
③地元組織や、関係地方公共団体等の意見調整の場が設けられている。	○	防災まちづくり検討会等を設置
④計画内容に関し、地元住民に対する事前説明が行われている。	○	H18年度から合意形成を図るため、説明会等を実施